

黙示録14章14－20節 「怒るに遅い神」

1A すでに実りの時

1B 正しく裁かれる方

2B ぎりぎりまで待たれる方

2A 世の終わりのしるし

1B キリスト者への迫害

2B 選ばれた者(ユダヤ人)への攻撃

1C 大虐殺

2C 世界の反ユダヤ主義

3B ゴグとマゴグの戦い

4B 天変地異

3A 執り成しを願われる方

1B 打ち勝つ憐れみ

2B 仲介者の必要

4A 預言に関わることへの勧め

1B 破れ口

2B 地の塩

本文

みなさん、明けましておめでとうございます！私たちは元旦礼拝、あるいは大晦日の礼拝などで、毎年恒例の、「聖書預言から、今の時を知る」シリーズを起こっています。イエス様が、「マタ 16:3b 空模様を見分けることを知っていながら、時のしるしを見分けることはできないのですか。」と言われましたし、使徒パウロは、こう言っています。「ロマ 13:11 さらにあなたがたは、今がどのような時であるか知っています。あなたがたが眠りからさめるべき時刻が、もう来ているのです。私たちが信じたときよりも、今は救いがもっと私たちに近づいているのですから。」時を知ることは、主の願われていること、みこころであることが分かります。

そこで今朝は、いろいろな聖書箇所を見ていきますが、初めに、黙示録 14 章 14-20 節を読んでみたいと思います。

¹⁴ また私は見た。すると見よ。白い雲が起こり、その雲の上に人の子のような方が座っておられた。その頭には金の冠、手には鋭い鎌があった。¹⁵ すると、別の御使いが神殿から出て来て、雲の上に座っておられる方に大声で叫んだ。「あなたの鎌を送って、刈り取ってください。刈り入れの時が来ましたから。地の穀物は実っています。」¹⁶ 雲の上に座ってお

られる方が地上に鎌を投げると、地は刈り取られた。

¹⁷ それから、もう一人の御使いが天の神殿から出て来たが、彼もまた、鋭い鎌を持っていた。¹⁸ すると、火をつかさどる権威を持つ別の御使いが祭壇から出て来て、鋭い鎌を持つ御使いに大声で呼びかけた。「あなたの鋭い鎌を送って、地のぶどうの房を刈り集めよ。ぶどうはすでに熟している。」¹⁹ 御使いは地上に鎌を投げて、地のぶどうを刈り集め、神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。²⁰ 都の外にあるその踏み場でぶどうが踏まれた。すると、血がその踏み場から流れ出て、馬のくつわの高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

1A すでに実りの時

1B 正しく裁かれる方

主が地上に来られる時、それは正しく裁かれる時です。人々が罪と不正を犯し続けて、悔い改めることなく、むしろ反抗しているところを、主が正しく裁かれます。それを、14 節から 16 節までは、穀物の収穫に喩えています。天の御国の奥義の喩えでも、主は、麦の収穫の喩えを使われ、毒麦は火で焼かれ、良い麦は倉に言えられます。良い麦は、御国に入れられる人々のことです。

そしてもう一つが、ぶどうの収穫の喩えです。ぶどうは、当時、ぶどう酒の酒ぶねがありました。今も、イスラエルに行くと多くの遺跡があります。岩を削って、薄く平らに削って、そこにぶどうの房を並べます。そして、ぶどうを裸で踏みつけます。女性の体重が良いそうで、なぜなら、男性のように重いと、ぶどうの種まで潰れてしまっ苦みが出て来るからです。そして汁になったものを、ちょうどプールの底と同じように、わずかな高低差を作っているので、一定のところに流れ落ちていき、そこで、ぶどう汁を集めるのです。

このことを用いて、諸国の軍隊が神とキリストに反抗してイスラエルに集まって来るので、主は、これらの諸軍隊と戦い、それで彼らの血にまみれた屍が、馬のくつわの高さほどになり、なんと 1600 スタディオン、約 300 キロに広がるとのことです。ハルマゲドンの戦いの最終段階です。

2B ぎりぎりまで待たれる方

しかし、ここで、見過ごされてしまう表現があります。主が正しく裁かれようとする時に、穀物の収穫では、「**地の穀物は実っています**」となっていますが、直訳は、「**実はかわいた**」となっています。つまり、実って、実り過ぎて、水気を失い乾き始めた、ということです。もう一つ、ぶどうの刈り取りでは、「**ぶどうはすでに熟している**」となっています。これは、熟しすぎて、はちきれんばかりになっている、ぶどうの状態です。そうです。主は、正しく裁かれますが、その裁きがすでに遅いように見えるその時に、速やかに来られて、裁き、救ってくださるのです。

主が来られる時について、このことが何度となく表現されています。預言者ハバククに対して、主は、「2:3 この幻は、定めの時について証言し、終わりについて告げ、偽ってはいない。もし遅くなくても、それを待て。必ず来る。遅れることはない。」と言われました。主人が帰って来るのが遅くなっていると感じて、悪いしもべが、仲間のしもべたちをたたき始め、酒飲みたちと食べたり飲んだりしていたところに、予期しない日、思いがけない時に主人が帰って来て、彼を厳しく罰すると書いてあります(マタイ 24:48-51)。

なぜ、遅くなっていると感じるほど、主は裁かれるのを待っておられるのか？そこには、神はさばかれる方であると同時に、いやそれ以上に憐れみ深い方だからだということです。ペテロが第二の手紙を書いた時に、こう言いました。「Ⅱ ペテ 3:8-9 しかし、愛する人たち、あなたがたはこの一つのことを見落としてはいけません。主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。9 主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」

2A 世の終わりのしるし

主イエスが、弟子たちに対して、世の終わりのしるしとしてオリーブ山で語られたことなどは、ご存知だと思います。改めて、去年、2025 年に起こったことを振りかえつつ、それら起こったことが、いかに主の言われているとおりにになっているか、見てみましょう。主は、いろいろな戦争のうわさを聞いたり、そしてメシアが現れたと言っても、惑わされないようにと言われました。そして国と国が戦い、民と民が戦い、それから地震、飢饉、疫病がはびこっても、それらは産みの苦しみの始まりにしかすぎないと言われました。

1B キリスト者への迫害

けれども、キリスト者への迫害が強まるのは、終わりの日の大きなしるしになります。「マタ 24:9 そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。」オープン・ドアーズによる迫害状況によれば、世界中に 3 億 8 千万のキリスト者が、信仰を理由に激しい迫害や差別を受けていて、増加傾向にあります。北朝鮮を始め、ソマリア、イエメン、リビアというようなイスラム教国や独裁政権が上位を占めています。また、アフリカや中央アジアでは暴力が顕著で、教会や信者の家への攻撃が増えました。殉教した人々は年間、4500 人に上ります。また、アフリカでは 1600 万人の規模で、強制的な移住が行われています。¹

2B 選ばれた者(ユダヤ人)への攻撃

そして、大事ななのは、なぜ迫害があるかと言うと、それは世が神に反対しているからであり、世の

¹ <https://jp.christianitytoday.com/2025/01/christian-persecution-2025-countries-open-doors-watch-list-jp/>

神は悪魔だからです。神が選び、神のものとされた者たちを何とかして滅ぼしたいと願っているからです。私たちキリスト者が、選びの民ユダヤ人に、キリストにあって接ぎ木されていることを思い出してください。ユダヤ人への迫害が、2025 年には飛躍的に増加しました。

1C 大虐殺

そのきっかけとなったのが、2023 年 10 月 7 日に起こった、ハマスによるイスラエル人の大虐殺や人質誘拐です。ついに二年後の 25 年 10 月 13 日に残された生存している人質が、全員、解放されました。その大虐殺は、言語に絶する類のもので、ホロコーストを想起させるものでした。というより、計画を立案したハマス指導者シンワルは、イスラエルの刑務所の収監中に、イスラエル人をいかにして痛めつけるかを知るために、ヘブライ語を習得し、イスラエルやユダヤ人について勉強しました。わざと、ホロコーストに結びつけることのできるような虐殺の仕方をしたのです。

2C 世界の反ユダヤ主義

人々は、それが人類の歴史で最も意図的な虐殺で最大規模のものであることを認め、世界各地にホロコースト記念館があります。ポーランドには、アウシュヴィッツ強制収容所に見学しに行くことができます。これは、二度と起こしてはいけないものだとしています。であれば、ハマスの行ったような反ユダヤ行為に、徹底して反対し、ハマスの実質的な壊滅を願うはずですが、実際は逆でした。ホロコースト以来、最も激しい反ユダヤ主義が勃興したのです。

ユダヤ人の人たちが、どこにいても、安全に暮らすことができるかを考えなければいけないほどでありました。そして、とっても平和な町だと言われているオーストラリアのシドニーで、ハヌカのお祝いをしていたユダヤ人たちに、ムスリムが無差別銃撃をしたという事件が、先月、12 月 14 日に起こりました。日本はどうか？と言いますと、イスラエルに対する感情が悪い国として、なんと二位、または三位になりました。一位がトルコ、二位がインドネシア、あるいは日本です。トルコとインドネシアは、イスラム教の国ですからまだ理解できるのに、なぜ日本なの？ということになります。それは、主に、マスコミの偏向報道のためだと言われています。

3B ゴグとマゴグの戦い

そして、オリーブ山から主は、エルサレムで、死体があつまり、禿鷹が集まることを語られました。それは、黙示録 19 章にもある、世界の軍隊に対して戦われた後の、先ほど話した屍のことです。聖書預言には、イスラエル人たちが離散の地から、約束の地に集められ、その後、世界の国々から攻撃を受けることが預言されています。「ゼカ 14:2-3 「わたしはすべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。都は取られ、家々は略奪され、女たちは犯される。都の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は都から絶ち滅ぼされない。」3 【主】が出て行かれる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。」

その、イスラエルを取り囲み、国々が一気に攻めてくるという預言は、いろいろあり、エゼキエルの預言には、ゴグと呼ばれる人物が、マゴグすなわち、カスピ海と黒海の間にあるコーカサス地方辺りから、周囲の国々、トルコやペルシア、また北アフリカの国々を主にして、一気に攻めてくることが書かれています。そこに出てくる国々が、世界情勢のニュースに頻出するのです。まずは、ロシアです。そしてイラン。イランは、ハマスやヒズボラ、またイエメンのフーシー派など、中東の紛争テロの黒幕です。そのイランが、ハマス、ヒズボラ、フーシー派が一斉に攻めてくるようにさせたという計画が明らかにされています。ついに、イスラエルと、がちんこで、ミサイルを飛ばしてきました。しかし、イスラエルも反撃しました。テロ組織の指導者をことごとく殺害し、ついにアメリカが、イランの核施設に地中貫通爆弾を撃ち込みました。

そして、イランは核開発で北朝鮮と深い技術的なつながりがあります。そして、今は中国がこれらの国々とつながっていることが浮き彫りにされました。ロシア、中国、北朝鮮、そしてイランです。黙示録 16 章には、日の出づるところから、東から王たちが移動して、涸れたユーフラテス川を渡り、ハルマゲドン、すなわちメギドに集結することが預言されています。中国の世界支配の野望も重なっており、預言者たちの幻は、今の時代の当事者国の動きをまるで見ているかのようです。

4B 天変地異

そして主は、ユダヤ人たちに対する患難の最後に、天変地異が起こることを語られました。「マタ 24:29-30 そうした苦難の日々の後、ただちに太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、星は天から落ち、天のもろもろの力は揺り動かされます。30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。」

気候変動や、大規模な地震など、これまでにない大きな異変を体感で分かるようになってきている、ここ数年です。

3A 執り成しを願われる方

こうやって聖書にある、神の預言は、歴史の中で、また今の情勢の中で確認できるようなものばかりです。もちろん、それらの出来事の完全な成就の多くが、将来を待つのですが、これまでは小川のようなちよろちよろ流れていたものが、一気に下流の川の大きな流れになっているように、兆しがとてつもなく明らかになっています。

そこで、世の中では、聖書を信じるキリスト者たちに、批判をするようになりました。それが、「あなたがたは、イエスが再臨してほしいから、これらの悪いことが起こるのを望んでいるのですね。」というものです。イスラエルにイエスが戻って来るから、だからユダヤ人たちがイスラエルに住み、国を建てるのを手助けしたんですね、とかいう批判です。こういった言説を、日本を含め、キリスト

教会までが言い始めていますから、あきれてしまいます。イエスは、その日やその時は、ご自身でさえも分からない、父がそれを定めているからということを言われます。主のなされることを、私たちが操作していくなど、そんな発想をするはずがありません。

主は、これらの悪いことが起こるのを、望んでおられないで前もってお語りになっているのです。善悪の知識から実を取って食べたら、必ず死ぬと主が言われた時に、アダムが死ぬことを願われたでしょうか？いいえ、違いますね。その反対です。神は主権者であります。同時に、ご自分の自由意志を与えて、愛によって人につながろうとされています。預言も同じです。これらの悪いことは、起こってほしくないと願われています。けれども、人が罪を犯し、悪魔が終わりの日に大きな惑わしをもたらし、福音を拒む者たちがこれらのことを行っていくのを予め知っておられて、それで予め語っておられるのです。

1B 打ち勝つ憐れみ

では、主は、今、生きている私たちに、どのように終わりの日にある世に、関わってほしいと願われているのでしょうか？ここからが、今朝の本題です。私たちは、これら悪いことに対して、どうせそうなるんだからと、自分自身は他人事として関わらず、イエスが天から降りて来られるのを、ただ待っていればよいのでしょうか？違います。

主は、預言の中で語られる時に、それを必ずしも宿命のものとして、つまり何が起こっても、変更がないものとして語っているわけではないことに注目すべきです。もちろん、主は初めから終わりまで知っておられますから、結局、何がどうなっても起こることを語っておられるのですが、その過程に、私たちが関わらないでいいとは教えていません。

一言でいえば、主は、ご自分の正しさを世に示しますが、繰り返しますが、憐れみ深い方なのです。「あわれみがさばきに対して勝ち誇るのです。(ヤコブ 2:13)」そして、その憐れみに、私たち神を知る者たちが関わってほしいと願われています。ここが、今朝、今年初めの説教でお伝えしたいことであります。それはちょうど、「神がすべてを初めから計画しておられるのであれば、どうして、祈る必要があるのか？」という問いに似ています。

それは、神がご自分のわざを行われる時に、ご自分の愛する、ご自分の造られた者に関わってほしいと願われるからです。私たちが祈る時に、その祈りを神が私たちの心において、それで祈る時にそれを聞かれることで、ご自身のみこころを行いたいと願われています。それと同じように、正しく裁かなければいけないことを知りながらも、その裁きを、悔い改めることによってとりやめたいと願われているほどなのです。主がモーセの前を通り過ぎた時に、御名を明らかにしました。「出 34:6-7【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、7 恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の

子に、三代、四代に報いる者である。」罰すべき者は罰するのです。三代、四代にまでその影響が続きます。けれども、主はへりくだる者には、実に千代の恵みを保ってくださいます。けた外れに、恵みのほうが、罰することよりも優っていることが、ご自分の御名の中に含まれているのです。

2B 仲介者の必要

そこで、主は仲介する者、執り成す者になってほしいと願われます。その御名を現したモーセは、まさにそのような者でした。イスラエルの子らを何度となく、滅ぼすと宣言されたのに、モーセは必死になって民のために執り成しました。それで、彼らは御怒りを免れたのです。それは、神ご自身が、憐れみ深い方であり、モーセの執り成しによって、その御怒りを抑えるようにしたいと、神ご自身が思っておられるからです。私たちは、前回の日曜の礼拝で学んだことの通りです。ユダがベニヤミンのために、父のゆえに執り成したように、主はご自身で語られても、憐れみによって対処することを、執り成し手が要る時には喜んで行いたいと願っておられます。

4A 預言に関わることへの勧め

1B 破れ口

それで、主が語られたことについて、主ご自身が私たちに、執り成しの祈り、またそうした動きに対して抗う動きをしてほしいと願われています。キリスト者に対する迫害でいうならば、ヘブル 13章で、彼らを思いやりなさいと勧めています。「ヘブル 13:3 牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやりなさい。また、自分も肉体を持っているのですから、虐げられている人々を思いやりなさい。」

そしてユダヤ人に対する憎悪はどうでしょうか？そうです、キリスト者は彼らに寄り添い、反ユダヤ主義に対して、その悪を、声を大にして出さなければいけません。悪に対して善と正義を叫びます。争いに対して平和で対抗します。

これを幻でエゼキエルが見ました。ところが、その時代、執り成す者がいなかったのを嘆いて、主が彼を通して語られました。それが週報に書かれている、2026 年のみことばです。「エゼ 22:30 この地を滅ぼすことがないように、わたしは、この地のために、わたしの前で石垣を築き、破れ口に立つ者を彼らの間に探し求めたが、見つからなかった。」人には、破れ口ができて、悪魔の攻撃を受け放題になっているところがあります。その間に立って、祈りによって執り成すのです。そこを守り、霊の要塞を築くのです。それを行う者がどれだけ少ないのか？と主は嘆いています。

2B 地の塩

そして私たちは、地の塩に召されています。「マタ 5:13 あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。」2025 年は、証しをすることがみことばでした。それは世の光で

す。人々にイエスを、光を証します。それに関連して、私たちは地の塩に召されています。それは、世が腐敗するのを遅らせます。破れ口に立って、それで悪がはびこる進行を、少しでもとどまらせる働きをするのです。

これは、主の願われている事なのです。もう熟しているのに収穫するのをためらっておられる主、もう収穫の時期で、乾いてしまっている穀物を刈り取るのをためらっておられる主の姿です。私たちが、執り成しによってその働きに関わっていきます。